

本カタログに掲載している製品内容は、部品としての品質範囲です。この部品を使用した最終製品の機能・性能・安全を保証するものではありません。

ランプ印 折戸 KF111-H型



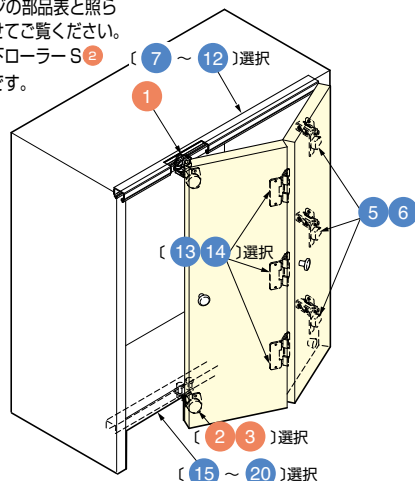
S
ドアレール金物(家具用)

木扉用

折戸

■納まり寸法例

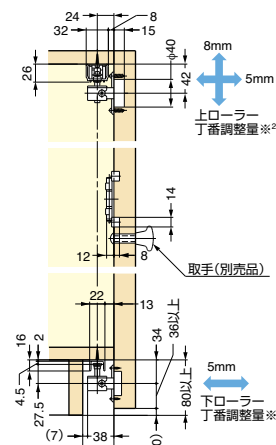
丸番号は部品番号です。右ページの部品表と照らし合わせてご覧ください。下図は下ローラー S (2) 使用例です。



■扉吊元のオープニング・クリアランス

吊元 カット量C ₁	扉厚 (mm)			
	28	30	32	34
3 (mm)	2.7	5.1	7.5	9.9
4 (mm)	1.9	4.1	6.5	8.9
5 (mm)	1.8	3.1	5.5	7.9
6 (mm)	1.8	2.4	4.5	6.9
7 (mm)	1.8	2.3	3.5	5.9

カット量：丁番のカップ取付穴と扉木口間の寸法



下レール地板下側取付仕様 (下ローラー S (2) 使用) 下レール地板内側掘込仕様 (下ローラー L (3) 使用)

※² 扉の高さは上下-4mmから+4mm、高さ-2.5mmから+2.5mm調整可能。

	下ローラー Sタイプ	下ローラー Lタイプ
扉幅	450mm以下 (扉1枚当たり) ※ ¹	
扉高さ	2400mm以下※ ¹	
扉厚	18~30mm	
扉質量	10kg以下 (扉1枚当たり) ※ ¹	
最大かぶせ代	26mm (吊元丁番：ランプ印 H230-26/26T)	
製品仕様	2枚折戸仕様 (かぶせ)	
	ガイドレール、下ローラー S (2) が地板の底に付く仕様。	ガイドレール、下ローラー L (3) が地板の内側 (キャビネット内部) に付く仕様。

※¹ 扉サイズは扉質量を優先して決めてください。

吊金具が外から見えない、かぶせ仕様の厚扉用折戸金物。

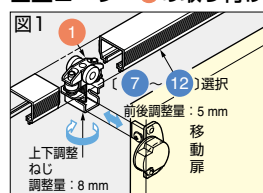
■特長

- センターヒンジは、開閉時のキャッチ機能と全閉時の衝撃吸収機能付きです。
- 上ローラーを調整して、扉位置を上下・前後に調整できます。

■注意

- 扉が規定質量を越えると開閉が重くなる場合があります。扉寸法が大きい場合は、フラッシュ構造などにより10kgを越えないようにしてください。
- 部品セットのストッパー (4) を側板に取り付ける場合は、厚さ10mmのスペーサー (木片など) を別途にご用意ください。

■上ローラー (1) の取り付け



- ・あらかじめ上レールを取り付け前に図1の向きに上ローラーを上レールに入れておきます。
- ・上ローラーの調整ねじで高さを調整し、移動扉の上部丁番を上ローラーのブラケットに差し込み仮止めします。

■下ローラー S (2) の取り付け



- ・全てのねじを仮止め後、扉を動かし滑らかに動くよう調整を行います。
- 最後に、全てのねじを確実に締め付け固定します。

■下ローラー L (3) の取り付け



- ・同じく下ローラー (3) を下レール (15~20) に図2の向きに入れ、専用丁番を差し込んで仮止めします。
- ・全てのねじを仮止め後、扉を動かし滑らかに動くよう調整を行います。
- 最後に、全てのねじを確実に締め付け固定します。

■扉寸法の求め方

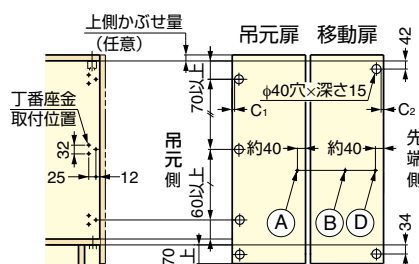
- 吊元丁番のカップ穴カット量C寸法は下記表を参照してください。
- 移動扉のカップ穴は下図および下記表の指定寸法を守ってください。
- 取手は別売品です。取付穴は使用する取手に合わせてください。
- 取手位置は使い勝手の良さを点で下図(A、B)の2ヶ使いをおすすめします (A：開く時、B：閉じる時)。C位置での1ヶ使いもできます。またA位置での1ヶ使いも可能ですが、この場合閉じる時は移動扉の先端部に直に手をかけて引くことになります (A位置は閉じる時には使えません)。

扉高さ	吊元丁番 (5, 6)	センターヒンジ (13, 14)
900mm	2ヶ	3ヶ
1600mm	3ヶ	3ヶ
2000mm	4ヶ	4ヶ
2400mm	5ヶ	4ヶ

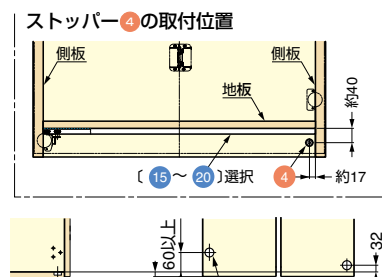
かぶせ量	吊元側カット量C ₁	先端側カット量C ₂
22mm	3	5
23mm	4	6
24mm	5	7
25mm	6	8
26mm	7	9

■扉の加工寸法 (扉裏面側)

図は右開きを示します。左開きは勝手違いとなります。



下レール地板下側取付仕様 (下ローラー S (2) 使用)



下レール地板内側掘込仕様 (下ローラー L (3) 使用)